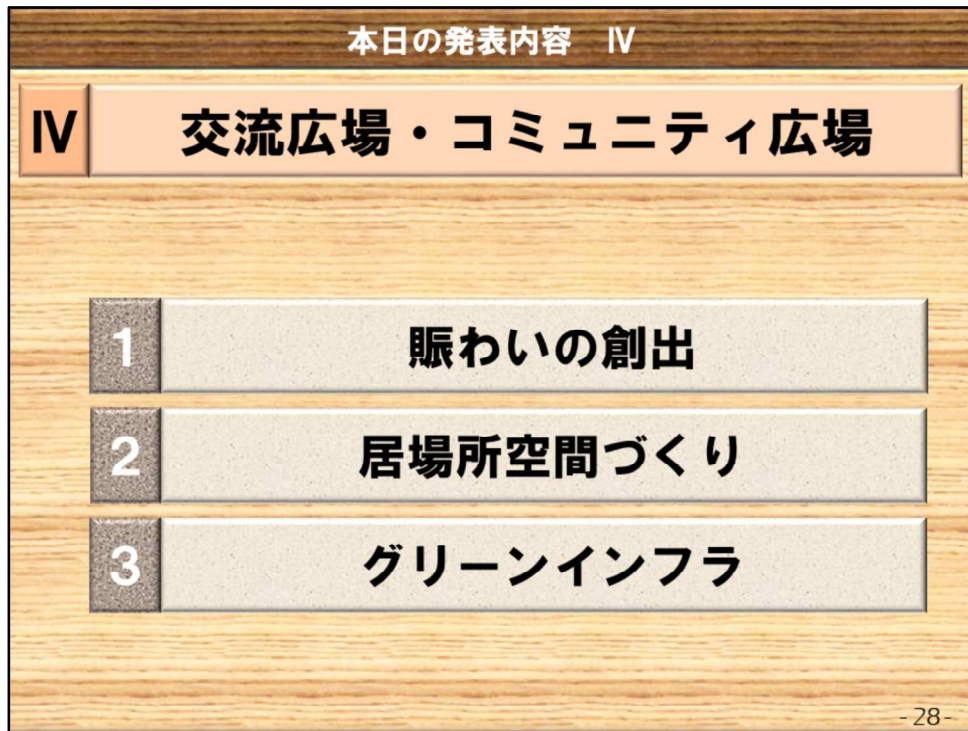




- 続いて、テーマⅣの「交流広場やコミュニティ広場」に関し、
- 賑わいの創出、
- 広場の居場所空間づくり、
- グリーンインフラの考え方、
- 以上3項目について説明します。



- 交流広場とコミュニティ広場について、配置図で場所をご確認ください
- 黄色の点線が、北側交流広場
- 続いて南側交流広場があり、リニア駅高架下空間を挟んで、一体的な活用をすることも視野に整備を進めます。
- 南側には白色の点線で示すコミュニティ広場があり、園路によって広場①と広場②に分かれ、イベントの規模に応じて大小の使い分けを想定しています。この広場は、災害の発生が予想されるような豪雨時の際の調整池としての機能も兼ね備えています。

IV 交流広場・コミュニティ広場（1 賑わいの創出①）		
1 賑わいの創出	意見要望	●調整池のためだけのスペースとするのではなく、市民の憩いの場となるような整備を検討して欲しい。 ●子どもや家族で楽しめる明るい雰囲気のエリアとして欲しい。
	対応方針	●イベント時にはステージや客席としても活用することができる石積や芝生などを配置して、市民の憩いの空間を創出する。 ●そのために、平坦ではなく起伏のある形状とし、大雨の際には排水を調整する機能を併せ持たせる。

- 「交流広場・コミュニティ広場」の最初の項目として、「賑わいの創出」について説明します。
- 報告会などを通じて、
- 『調整池のためだけのスペースとするのではなく、市民の憩いの場となるような整備を検討して欲しい。』
- 『子どもや家族で楽しめる明るい雰囲気のエリアとして欲しい。』などのご意見をいただいております、これらを踏まえた対応として、
- 『イベント時にはステージや客席としても活用することができる石積や芝生などを配置して、市民の憩いの空間を創出する。』
- 『そのために、平坦ではなく起伏のある形状とし、大雨の際には排水を調整する機能を併せ持たせる。』
- といった方針をもとに、このエリアの実施設計を進めました。



- 賑わいの創出として、南側交流広場を俯瞰したイメージパースをご覧ください。
- 南側交流広場は、『結いの広場』として、住民や来訪者の居場所となる駅前空間を演出します。
- 大屋根の下を活用してマーケットやイベントを開催したり、緑により四季を感じられる空間を創出して、憩いの場として利用していただくことも想定しています。

IV 交流広場・コミュニティ広場（1 賑わいの創出③）

南側交流広場のイベントの様子

〔西から東を望む〕



-32-

- 南側交流広場がイベントなどで活用されているイメージです。
- これも以前の報告会でお示したイメージ図と同じものになります。
- 広場や木造の大屋根の下を活用して、獅子舞などの広いスペースが必要な催しも開催できる設えとなります。



- 北側交流広場を俯瞰してご覧いただいています。
- 北側交流広場は、交通広場や北側駐車場①②と接続することから、市民、来訪者の方がフェイストゥフェイスで交流ができる、コミュニケーション創造エリアの機能も想定していきます。
- また、緑の多い設えとし、落ち着いた空間も演出していきます。

IV 交流広場・コミュニティ広場（1 賑わいの創出⑤）

北側交流広場のイベントの様子

〔自由通路出口から北を望む〕



- 34 -

- 高架下空間の自由通路から、北側交流広場を望んだイメージです。
- これも以前の報告会でお示したイメージ図と同じものになります。
- この場所での、来訪者の方々と地域の方々との交流の様子を描いています。
- また、広場の背後には河岸段丘、さらにその向こうには地元の山脈(やまなみ)が望めます。

IV 交流広場・コミュニティ広場（2 居場所空間づくり①）		
2 居場所空間づくり	意見要望	●市民やリニアの利用者はもちろん、色々な人が様々な目的に使えるようなエリアであって欲しい。 ●交流広場やコミュニティ広場も、固定的な使い方だけではなく、例えばキッチンカーでの販売やテント市の開催等、レイアウトフリーで自由な使い方ができるようにするといい。
	対応方針	●住民・事業者のほか、学生・専門家等と一緒に議論を重ね、色々な人が色々な目的で利用できる自由度の高い駅前空間とする。 ●交流広場とコミュニティ広場の間には園路を設け、電気照明関係等の設備を配置することにより、マルシェの開催等様々なイベントに活用できるエリアとする。

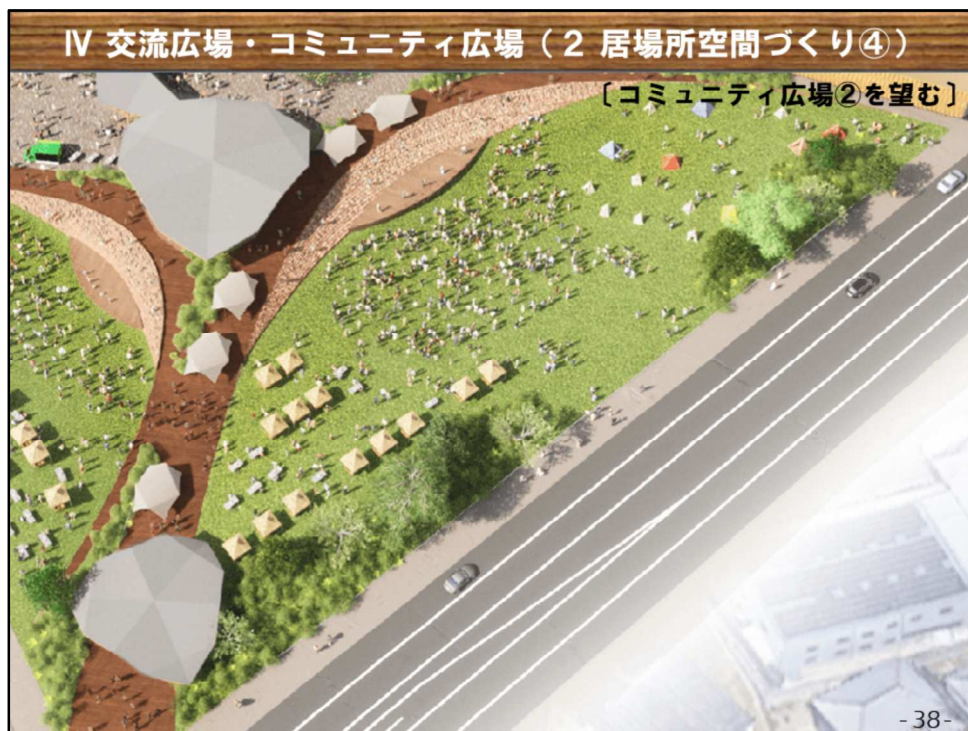
- 続いて、「交流広場やコミュニティ広場」の「居場所空間づくり」について説明します。
- 報告会などを通じて、
- 『市民やリニアの利用者はもちろん、色々な人が様々な目的に使えるようなエリアであって欲しい。』
- 『交流広場やコミュニティ広場も、固定的な使い方だけではなく、例えばキッチンカーでの販売やテント市の開催等、レイアウトフリーで自由な使い方ができるようにする。』などのご意見をいただいております、これらを踏まえた対応として、
- 『住民・事業者のほか、学生・専門家等と一緒に議論を重ね、色々な人が色々な目的で利用できる自由度の高い駅前空間とする。』
- 『交流広場とコミュニティ広場の間には園路を設け、電気照明関係等の設備を配置することにより、マルシェの開催等様々なイベントに活用できるエリアとする。』
- といった方針をもとに、このエリアの実施設計を進めてきました。



- こちらは、南側交流広場やコミュニティ広場のイメージパースです。
- コミュニティ広場は、園路によって大小に分けられ、様々な用途に活用できるようにします。
- 園路脇は石積みとし、それで区切られたエリアは単調な平面ではなく起伏のある地形とし、広場到人々が集まり、賑わいのある空間となるような設えとしています。
- 南側交流広場とコミュニティ広場2カ所をつなぐ場所には大屋根を配置し、広場を活用する時の拠点となります。



- 居場所空間の創出として、コミュニティ広場①でイベント等が催されている様子です。
- 子供向けのパフォーマンスやイベントを開催したり、マルシェや屋台等を活用した家族での憩いの空間となるイメージにより賑わいのある様子を描いています。



- コミュニティ広場②でイベント等が催されている様子です。
- 仮設ステージでは、人形劇や音楽イベントが開催され、その周辺ではテント市などが出店しているイメージを現しています。

IV 交流広場・コミュニティ広場（2 居場所空間づくり⑤）

南側交流広場の大屋根・高架下空間の様子

〔南から北を望む〕



- 39 -

- こちらは、以前の報告会でお示した南側交流広場から駅舎正面、高架下空間を見たイメージです。
- 手前の広場では家族でのんびりしたり、散歩したりできる、居心地の良い空間として活用されています。

IV 交流広場・コミュニティ広場（2 居場所空間づくり⑥）

コミュニティ広場でのイベントの様子

〔南東から風越山を望む〕



- 40 -

- 南側コミュニティ広場②から北西を見たイメージです。
- こちらも以前の報告会でお示したイメージ図と同じものになります。



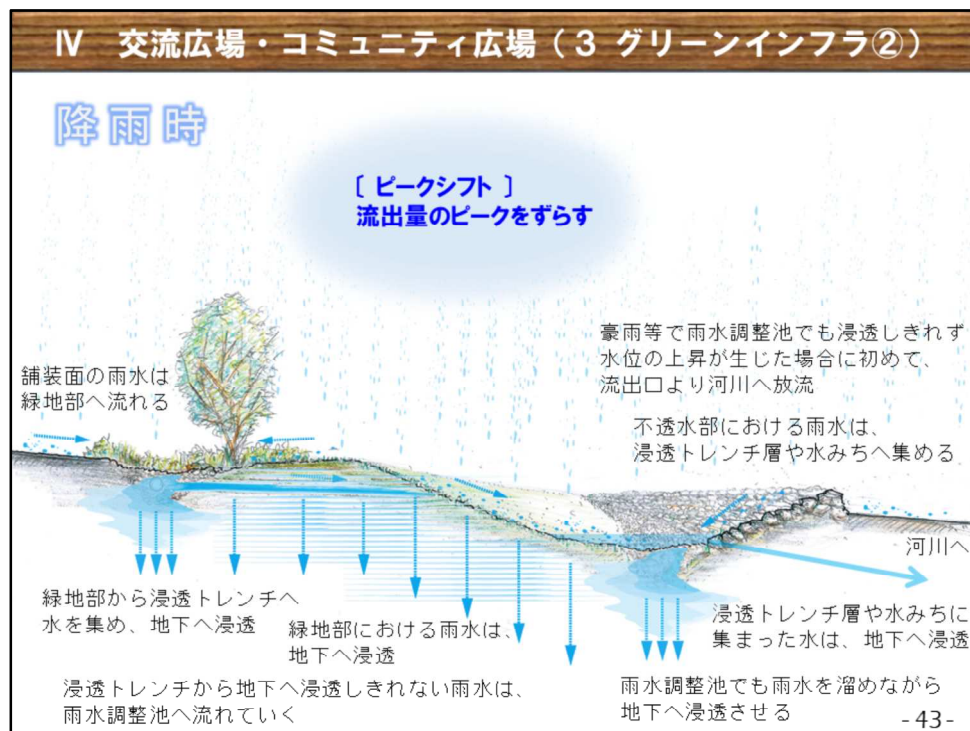
- この駅前広場からは、東に伊那山地、南アルプスが望め、西にも風越山(かざこしやま)をはじめとする地域の山々を望むことができます。
- 駅前広場内の様々な場所からこれらの山々を望める場所として、ビューポイント(視点場 してんば)を確保していきます。

IV 交流広場・コミュニティ広場（3 グリーンインフラ①）		
3 グリーンインフラ	意見要望	●賑わいがあり、様々な人の居場所となる空間づくりを進めるためにも、自然や環境に十分に配慮したリニア駅前空間になるようにして欲しい。
	対応方針	●自然豊かで環境に配慮した駅前空間となるよう、グリーンインフラによる整備に取り組む。 ●施工及び維持管理の面からも、自然や環境への負荷を極力低減する。

- 42 -

- 続いて、「グリーンインフラ」について説明します。
- 報告会などを通じて、
- 『賑わいがあり、様々な人の居場所となる空間づくりを進めるためにも、自然や環境に十分に配慮したリニア駅前空間になるようにして欲しい。』などのご意見をいただき、これらを踏まえた対応として、
- 『自然豊かで環境に配慮した駅前空間となるよう、グリーンインフラによる整備に取り組む。』
- 『施工及び維持管理の面からも、自然や環境への負荷を極力低減する。』
- といった方針をもとに、実施設計を進めました。

IV 交流広場・コミュニティ広場（3 グリーンインフラ②）



- 降雨時の雨水の流れについて模式図にてご説明します。
- 降雨時の初期の段階では、緑地部に降った雨は地下に浸透していきます。
- 舗装面や不透水部における雨水は、浸透トレンチ層や水みちへ集めます。
- 浸透しきれない雨水は、浸透トレンチへ水を集めますが、浸透トレンチ内においても浸透していきます。
- 浸透トレンチから地下へ浸透しきれない雨水は、雨水調整池へ流れていきます。
- 雨水調整池においても、雨水を溜めながら、地下へ浸透させていきます。
- 豪雨時において、雨水調整池でも浸透しきれず水位の上昇が生じた場合に初めて、流出口より河川へ放流します。
- このようにして、豪雨時の河川への雨水流出ピークをずらすことにより、下流域での急激な増水による影響を低減させることができると考えています。